

## 1. 海外パビリオンの建設の遅れ

- 海外パビリオンについては、建設事業者が決定した国は拡大しており、タイプXやCへの移行を考える国も増えているが、建設事業者の絞り込みが進んでいる国については交渉妥結に向けて個別伴走支援を強化するほか、意向が決まっていない国に対しては対応方針決定を促す。
- タイプXを担う建設事業者に対しては、段階的な発注を進める。

## 2. 建設費の高騰

- これまで基盤インフラの整備などの会場建設費については、1850億円に収めるべく最大限の努力をしているところ。一方で、今般の資材価格や労務費の高騰等の影響を踏まえ、増額の懸念が高まっていることは事実であり、改めて、会場建設費の精査を行う。
- 海外パビリオンの建設については、参加国に対して、予算増やデザインの簡素化を促す働きかけを続けるとともに、後述の施工環境整備を進め、建設事業者が受注しやすい環境を整える。

### 3. 建設全体を円滑に進めるための施工環境整備

- 建設の本格化に伴い、建設現場の環境整備は急務。例えば、現場のアクセス性の改善やバックヤードの確保、現場作業に従事する方々の食事や休憩をする場所の提供、現場作業を円滑にするための給水や電気などインフラ改善に関する要望をいただいている。これらの課題に対して、引き続き円滑に建設が進むよう、関係省庁、博覧会協会、府市を含む関係者が連携し、速やかに環境整備をしっかりと整えていく。
- 設備や内外装、展示の工事についても、円滑な実施が確保されるように対応する。

### 4. 安全で円滑な運営

- 大阪・関西万博の来場者の安全確保は、万博成功に向けて最も基本的かつ重要なことであり、インフラともいえるもの。安全確保は、近年の警備事案や隣国の雑踏事故を踏まえ、万博の誘致当時よりも高い水準が求められている。
- こうした考え方の下、今回、大阪・関西万博の会場内の安全確保に万全を期する。

## 5. 万博のコンテンツの充実と魅力の発信

- これまで「未来社会の実験場」の具体化と日本全国における万博メリットの享受に向け、「2025年大阪・関西万博アクションプラン」を策定し、関係府省が取組を進めているところ。
- 万博成功のカギはコンテンツの充実。空飛ぶクルマなどのアクションプランの深掘りなどを通して、テーマ館、パビリオン、催事イベントなど、より魅力あるコンテンツに仕上げていく。
- また、これまで以上に万博をPRし機運を高め、前売り券をはじめチケットの販売促進に取り組む。

## 6. 博覧会協会の人的基盤の強化

- 博覧会協会において、よりスピード感をもって着実に進めていくためには、関係省庁の協力のもと、博覧会協会の抜本的な体制強化と体質の改善を行う。
- また、より正確かつ迅速な広報を行うため、今後、週一で博覧会協会副事務総長が記者懇談会等、月一で事務総長が記者会見を行うこととしているが、引き続き丁寧でわかりやすい広報を通じて機運を高める。